

第30回東北矯正歯科学会大会

【会 期】 2014年(平成26年)5月24日(土)・ 5月25日(日)

【会 場】 コラッセふくしま

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号

TEL : 024(525)4089

【主 題】 「美しい歯ならび うつくしま ～震災を乗り越えて～」

第1 日目 5 月24 日 (土)

- 12:30～ 受付 : 3F 企画展示室
- 13:00～14:00 市民公開講座 : 4F 多目的ホール
長谷川 博 先生 (福島県立医科大学附属病院歯科口腔外科部長・准教授)
「精神的ストレスと顎関節症」
- 15:00～15:10 開会式 : 4F 多目的ホール
- 15:15～17:00 特別講演 : 4F 多目的ホール
大津留 晶 先生 (福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座教授)
「放射線災害と向き合って～原発事故後の現況と医療における課題～」
- 12:30～17:00 学術・症例展示、症例報告、商社展示 搬入 : 3F 企画展示室
- 17:10～17:40 総会 : 4F 多目的ホール
- 18:30～20:30 懇親会 : 福島ビューホテル

第2日目 5月25日(日)

- 8:30～ 受付 : 3F 企画展示室
学術展示・症例展示 : 3F 企画展示室
商社展示 : 3F 企画展示室
- 9:00～11:50 シンポジウム1 「歯科治療と心の問題」 : 4F 多目的ホール
- 9:00～09:45 矢部 博興 先生(福島県立医科大学医学部神経精神医学講座教授)
「歯科治療時に考慮すべき精神疾患と対人関係の病理」
- 9:45～10:30 安彦 善裕 先生(北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野教授
同大学病院「口腔内科相談外来」)
- 「Medically unexplained oral symptom
(医学的に説明困難な口腔症状)を訴える患者への対応」
- 10:30～11:15 豊福 明 先生(東京医科歯科大学歯科心身医学分野教授)
「咬合関連の不定愁訴をどう診るか?」
- 11:15～11:50 総合討論
- 12:00～13:00 ランチョンセミナー : 4F 多目的ホール
杉山 晶二 先生(医療法人社団矯晶会杉山矯正歯科院長)
「デジタル技術を応用した舌側矯正治療装置とバイオメカニクスについて」
- 13:00～14:00 学術・症例展示・討論 : 3F 企画展示室
認定医更新用症例審査および口頭試問 : 3F 301 会議室
- 14:10～16:10 シンポジウム2 「長期咬合管理のコンセンサスを求めて」 : 4F 多目的ホール
- 14:10～14:40 佐藤 和朗 先生(岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座歯科矯正学分野准教授)
- 14:40～15:10 北浦 英樹 先生(東北大学大学院歯学研究科歯学部口腔保健発育学講座
顎口腔矯正学分野准教授)
- 15:10～15:40 黒田 栄子 先生(奥羽大学歯学部成長発育歯学講座歯科矯正学分野臨床講師)
- 15:40～16:10 総合討論
- 16:10～16:20 閉会式 : 4F 多目的ホール
- 15:30～16:30 搬出(学術展示、症例展示、症例報告、商社展示) : 3F 企画展示室



うつくしま ふくしまへ こらっせ

第30回 東北矯正歯科学会大会
大会長 清水 義之

東日本大震災により、福島市で開催予定の第27回大会は中止という判断をせざるを得ず、会員の方々に多大なる御迷惑をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。このたび、皆様方のご厚情により、第30回大会を福島市のコラッセふくしまで開催する機会を与えていただきまして誠にありがとうございました。震災から3年以上経過しましたが、被災地、特に福島第一原発事故に伴う計画的避難区域の本格的な復興と避難住民の帰還はこれからで、避難者がまだ多数いる状況で問題は山積しています。

「うつくしま ふくしま」という言葉は、福島県の観光用のキャッチコピーです。福島県は日本の原風景が残っているとされるぐらい自然豊かな美しい場所で、全体の形がオーストラリアに似ていることから、美しい島と福島の語呂合わせで「うつくしま ふくしま」という言葉が生まれたそうです。残念ながら我が故郷福島は、地震、津波、福島第1原発事故に伴う放射能汚染による被害を受けてしまいましたが、「うつくしま ふくしま」という気持ちを福島県民は変わらず持ち続けており、震災に伴う様々な問題を乗り越えて、新たな未来に向かって矯正治療について考えましょうというコンセプトで「美しい歯ならび うつくしま ～震災を乗り越えて～」という基調テーマを考えました。

震災から3年が過ぎましたが、大規模災害時に歯科医師が社会に対して何が貢献できるのか？と考えさせられる毎日でした。検死への協力、被災避難者の歯科治療への支援に加えて、放射線災害が起きた福島では、放射線に関する正しい情報を一般市民に伝える役割も、医療従事者として我々歯科医師に求められました。現在でも福島県外や仮設住宅等で避難生活を送らざるを得ない被災者が数多く存在し、生活習慣病の増加、精神的ストレスなどの問題が起きています。また、放射線問題により屋外での活動が制限され、子供達に運動不足による体力の低下、肥満等の問題が起きています。未だに放射線への過度の恐怖心を持っている人々も存在し、健康被害の発現を懸念することにより、様々な心の問題を起こしています。

大会では、震災後に福島で起きた様々な問題を意識してプログラムを作製しました。福島市の現在の外部放射線量は西ヨーロッパの水準で、農水産物も厳しい放射線量のチェックを受けて出荷されていますので、内部被曝の問題もありません。様々な美味、美酒を堪能でき、近郊に素晴らしい温泉もありますので、福島の復興のためにも是非大会に参加下さる様、お願い申し上げます。